

額田王、近江天皇を思ひて作る歌一首

四八八番

君待つと 我が恋ひ居れば 我がやどの 簾動  
かし 秋の風吹く

鏡王女のおほきみ  
鏡王女の作る歌一首

四八九番

風をだに 恋ふるはともし 風をだに 来むとし  
待たば 何か嘆かむ

吹茨刀自の歌二首

四九〇番

真野の浦の 淀の継ぎ橋 心ゆも 思へや妹が  
夢にし見ゆる

四九一番

川の上の いつ藻の花の いつもいつも 来ませ  
我が背子 時じけめやも